

# 進捗報告書（実行団体）

Version 1.0

2021年10月5日

事業名:	脱孤立！地域資源を活かしたつながりの場
資金分配団体:	公益財団法人信頼資本財団
実行団体名:	合同会社 SOULS
実施時期:	2021年5月～2022年2月
事業対象地域:	奈良県
事業対象者:	コロナで外出を控えている子育て世代と地域の人との交流が薄れた高齢者

## I. 事業概要

### 事業概要

ワンオペ育児のケアサポート、先輩ママの訪問による家事や子どもの見守りサポートや食事の宅配を行う。耕作放棄地で育てた野菜を宅配のお料理に使用、孤立したママの自立や社会との接点を取り戻すサポートと地域資源の活用としてすでに地域にある高齢者サロンとの連携により多世代が交流できる居場所と雇用を作り出す。また持続可能な自立支援を含めた循環型コミュニティーを構築していくために移動式コミュニティーカー（飲食の提供・物販）を導入。必要な地域に出向いて小さな集落でのコミュニティーの場を創り出す。食品加工・製造・販売を通して地域課題と社会の課題解決につなげる。

## II. 進捗報告の概要

### 総括

全体的に遅れはあるが、一部中止・縮小しながらではあるがその他は計画通り進められている。  
コロナによりコミュニティーカーの車両不足という事態にも影響が出ていたが、比較的早く入手でき順調に進んでいる。地域の高齢者との交流が一時中止されることがあった。地域とのコミュニティー構築が遅れ気味である。課題としては、接触を恐れる傾向が地域によってある為、そのお気持ちに寄り添いながら進められる方法を検討していく。  
子育てサポートは、以前から行っている食事の形式を利用しやすいように変化させ身近なお母さんたちからモニターとして開始。今後の動きとしては、お惣菜加工場を完成・コミュニティーカーの始動により、母たちの雇用、地域との関りを深められる宅配を兼ねたコミュニティーの場作りを行っていく。

### Ⅲ.活動実績

アウトプット（今回の事業実施で達成される状態）	進捗状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワンオペ育児に悩む産褥期の食事サポートに5件訪問</li> <li>・サポートと調理に携わる母の雇用</li> <li>・地域の各集落10世帯程を巻き込みながら地域コミュニティーの場を作り出している</li> <li>・耕作放棄地5箇所を農地にし、そこで育てた野菜をお惣菜に加工し月100食の宅配を目標にコミュニティーカーを稼働させている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠期から産後に不安を感じていた人たちに食事サポートの案内をさせていただき、産褥期の食事とサポートにあたらせてもらった。</li> <li>・地域との交流の場として、作物の収穫や行事の準備を一緒に行った。</li> <li>・惣菜調理場の完成間近。完成後、母の雇用予定の母たちとミーティングと改装前の片付けなどの活動を行い、共に構築していくメンバーとして話を重ねていっている。</li> <li>お惣菜の調理トレーニングへと入っていく。</li> <li>・耕作放棄地の農地開拓は4か所農地に使用し始めており、冬野菜の植え付けをしていく。</li> <li>・100食、惣菜調理が可能な調理場の片付けを行い、改修工事が始まり、営業許可の申請へ。</li> <li>これから母の雇用に伴い調理のトレーニングに入っていく。</li> <li>・コミュニティーカーの車両申請手続きを終え、納車待ちの状態。納車後は、慣らし運転とコミュニティーカーでの食事提供のトレーニングに入っていく。</li> <li>・産後の孤独を解消するコミュニティーの構築のひとつとして。妊娠期に安心して産後の赤ちゃんの成長・発達について学び、安心して出産に望めるように、産後のケアにつなげる講座を開校した。</li> </ul>

活動	進捗状況	概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・産後の食事サポート</li> <li>・耕作放棄地の農地化と作物育成</li> <li>・高齢サロンとの交流</li> <li>・コミュニティーカーの導入準備</li> <li>・惣菜加工調理場の改修に向けての手続き、地域との話し合い</li> </ul>	<p>ほぼ計画通り</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産褥の食事サポート3件</li> <li>・高齢サロンとの活動は2回実施 参加人数25名</li> <li>・地域との話し合い 2回実施</li> <li>調理場の改修の承諾</li> <li>耕作放棄地の使用に関しての話し合い</li> <li>・コミュニティーカーの導入にあたり</li> <li>調理場の改修手続き、ロゴデザインの依頼</li> <li>・産後のケアに繋げる講座は1コース3回のうち1回（残り11月・2月予定）</li> </ul>

#### IV. 事業実施後（1年以降）に目標とする状態への所感（中間時点）

##### 自由記述

産後の食事サポートについては、妊娠期から産後の不安を軽減させる講座の開校し始めたことで産後の不安がコロナでより妊娠することすら不安を感じている人もいる中、妊娠期から関わることで不安を軽減し孤独の解消につなげていけると感じている。

食事を作らなくとも「食事がすでにある」という状態は、そこに費やす時間を子どもとの関りの時間に充てることができ、カラダも休まる、顔の見える人に作ってもらったごはんという安心感も不安の軽減につながっている。

食事のサポートがあることで、産後の子育て世代はじめ、高齢者にも継続的に関りを持つことができると感じている。

また、農地で作物を育て始めたことで、地域の人との新たな関りが生まれ農作業を通して親子での関わりも増えていくと予想される。

#### V. インプット

		2020年度	2021年度	合計	執行金額	執行率
事業費	直接事業費	¥0	¥12,001,000	¥12,001,000	¥1,025,600	9%
	管理的経費	¥0	¥2,999,000	¥2,999,000	¥1,110,060	37%
合計		¥0	¥15,000,000	¥15,000,000	¥2,135,660	14%

##### 補足説明

執行率が低い原因は、改築を進める場所のオーナー（地域団体）との話し合いがコロナの影響で延期され、また、理解の相違が生じた為話し合いを再度設けたりと遅れが生じた。 全体的に10月から大きく動き出す予定。

#### VI. 事業上の課題

##### 事業実施上顕在化したリスク/阻害要因とその対応

コロナの再緊急事態宣言の影響で、一時高齢サロンの活動が中止され、接触を極度に懸念する人がおり活動しにくくなった。しかし、個人で関わる分には 距離を保ち間接的に連絡をとってもらったりと交流がとれるように対策を考えながら、臨機応変な対応で今後も進めていく。

コミュニティーカーの導入で、各地域に出向きつながりの場所を構築行きたいと進み始めたが、調理機能を搭載した車両の需要がコロナで頻発しており、手配の遅延が想定外だったが、比較的早く手配することができその後は順調に進められそう。

また、産院との連携については助産院のおかれる状況が逼迫していることもあり、連携するところまではいけていないが、産後ケアに繋がる講座にお呼びするなどして、状況に応じてサポートを必要としている人に届けられるように告知チラシの作製し配布していく。

## VII. その他

自由記述

## VIII. 広報実績

広報内容	有無	内容
メディア掲載 (TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等)	無し	
広報制作物等	無し	
報告書等	無し	

## IX. ガバナンス・コンプライアンス実績

ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。	はい	
2. 内部通報制度は整備されていますか。	はい	